

令和7年 月 日

安来市長 田中武夫 様

安来市特別職報酬等審議会

会長 赤坂一念

答 申 書

令和7年1月29日付で、田中武夫市長から本会に諮問がありました議会議員報酬並びに市長、副市長および教育長の給料(以下「特別職の報酬等」という。)および改定時期について、慎重に審議を重ねた結果、次のとおり答申します。

記

1. 特別職の報酬等

職		現 行	改定案	引上げ額
議 会	議 長	413,000	432,000	19,000
	副議長	370,000	387,000	17,000
	議 員	343,000	358,000	15,000
市 長		890,000	改定なし	
副市長		730,000		
教育長		645,000		

2. 改定時期

市議会議員 令和7年改選後

【審議会での協議内容と付帯意見】

当審議会は1月29日に田中武夫安来市長より諮問を受けてから、次のとおり審議会を開催し、議会議員報酬並びに市長、副市長および教育長の給料額および改定の時期について審議を行った。

第1回	令和7年1月29日
第2回	令和7年2月19日
第3回	令和7年3月17日

審議会の基本的な考え方として、下記事項を重要視点とし、様々な角度から審議を行った。

1. 職務、職責に対する妥当性
2. 類似団体等の均衡
3. 社会経済情勢との均衡
4. 市の財政状況
5. 一般職員の給与改定状況

1) 市議会の議員等の報酬について

議員報酬は、県内他市と比較すると、格段に低いわけではない。しかし、近年の物価上昇や人事院勧告を参考とすると上げてしかるべきとの意見が多数あった。議論の末、報酬はその職責に見合う報酬が必要であること、人材確保の観点からもプラスの報酬改定が必要との結論に至った。人事院勧告の平成17年から令和6年までの影響額を勘案し、改定率は4.5%を答申する。

改定の実施時期は、令和7年10月の市議会議員選挙後が望ましい。

【付帯意見】

今後の人口減少を踏まえた議員定員削減を行うべきである。議員報酬が増となっても、議会全体の予算枠が変わらなければ市民の理解も得られやすいのではないかと。また、議員の活動が市民に理解されていないなどの意見があった。報酬改定にあたり、引き続き議会の果たす役割について議会の中でさらなる議論を望む。それとともに、市民からの理解を得るため、議員一人ひとりが政策や日頃の議員活動について情報発信するなどの努力をしていただきたい。

2) 議会各委員長および副委員長への手当等の新設について

事務局より説明を受け、一般の議員よりも業務があり責任を伴うことに一定の理解はした。しかし、議員の半数以上が議会において何らかの役に就いていること、山陰地方の自治体において委員長職に報酬区分や手当を設定しているのは2自治体のみであることから、現時点においては見送るべきと考える。今後、さらに議会改革の取り組みが進み、成果が見られた時点で改めて審議すべきと考える。

3) 市長、副市長および教育長の給料について

市長をはじめ三役の特別職については、長年見直しがなかったことや物価の上昇などの理由から議員同様に増額すべきとの意見もあった。しかし、近隣自治体と比較しても決して低い水準ではないことから、今回は据え置きとする。

【付帯意見】

議論の中で、賞与の月数についての意見があった。特別職の賞与が他市や安来市の議員と比較して低く、疑問を感じる。条例で定めるものではあるが、他市や議員との均衡を考えると、賞与の支給月数を市議員と同程度に改善すべきと考える。

4) その他

審議会自体が長期間にわたり開催されていないことが問題であるとの意見で一致した。経済状況や社会状況は刻一刻と変化しており、一定程度の間隔で報酬に関する審議は行わなくてはならない。開催頻度について、ぜひ検討をすべきである。

本審議会の委員

会長	赤坂一念
職務代理	伊藤徹
委員	荒銀純治
	佐藤雅子
	秦友宏
	畠中迪子
	松田英樹
	渡部記子